

棚田に吹く風

2016
冬
Winter
季刊

2 特集

エコプロダクツ2015

出展レポート

5 フォトエッセイ

田園芸術のすばらしさ

6

棚田・里山からのたより
耕作放棄地の棚田を
日本一のシャクヤク園にしたい!
高知県長岡郡大豊町八畝地区

8

棚田⇄温泉案内所
ヨネちゃんの ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

9

棚田博士は今日も行く
熊野山中色川の棚田
和歌山県那智勝浦町小阪

12 会員のひろば

14

棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき

15 Project Report



棚田へおいでよ！ ようこそ！棚田の世界へ



『わたしが選ぶクールな未来』をメインテーマにエコプロダクツ展2015が東京ビッグサイトで開かれました。

会場の二画に広いスペースの「日本の棚田」共同展示コーナーが設けられ、都市住民や企業関係者と棚田地域の多彩な触れ合いが繰り広げられました。

この企画は「全国棚田（千枚田）連絡協議会」の呼びかけのもとに棚田関連の14団体が共同で出展したものです。企画運営については同連絡協議会の委託を受けた棚田ネットワークが担当。保存会ブースやミニステージは3日間とも大勢の来場者で賑わいました。

棚田グループ共同出展企画

参加団体

- ① 佐渡棚田協議会 (新潟県佐渡市)
- ② 樺平棚田保全活動推進委員会 (山形県朝日町)
- ③ 四ヶ村美しい農村再生支援事業運営委員会 (山形県大蔵村)
- ④ 恵那市坂折棚田保存会 (岐阜県恵那市)
- ⑤ 恵那暮らしサポートセンター (岐阜県恵那市)
- ⑥ 英田上山棚田団 (岡山県美作市)
- ⑦ 小谷村田んぼオーナー推進会議 (長野県小谷村)
- ⑧ 大山千枚田保存会 (千葉県鴨川市)
- ⑨ 石部地区棚田保全推進委員会 (静岡県松崎町)
- ⑩ 白米千枚田愛耕地 (石川県輪島市)
- ⑪ 奥能登すず・吉ヶ池 (石川県珠洲市)
- ⑫ しみず地域観光活性化協議会 (和歌山県有田川町)
- ⑬ 全国棚田（千枚田）連絡協議会
- ⑭ 棚田ネットワーク

企画 全国棚田（千枚田）連絡協議会
制作 NPO法人 棚田ネットワーク

■特別協賛

株式会社イトーヨーカ堂
クラブツーリズム株式会社

■協賛

オンラインショップ 棚田米百選
石井産業株式会社
福岡農産株式会社
島根県土地改良事業団体連合会

全国12地域のブースでは

各ブースとも最も力を入れたのが地域紹介。ポスターやパンフによる宣伝と特産品の販売でした。棚田米の販売では四ヶ村、佐渡、奥能登、白米、石部、有田川などのブースで量り売りやパック詰めなど工夫を凝らした品揃えで来場者に人気でした。そのほか特産品ではリンゴ・ミカン・織物・手芸品などが所狭しとブースを埋め尽くしていました。

また、大山千枚田や石部棚田のブースでは都市住民に棚田オーナーの募集、朝日町ブースでは故郷納税の呼びかけなどが行われ、坂折棚田では企業との連携事業が紹介されていました。棚田ブースでは初めてのケースとして、恵那の暮らしサポーターブースで「移住促進」のPRなどが行われました。来場者の多くは都市住民で、居ながらにして各地の棚田地域と接触できる良い機会となりました。



クイズ ラリー

クイズラリーは大人気

集客に貢献したのは何と云ってもクイズラリー。3日間とも開場と同時にたくさんの小学生達が列を作り、棚田クイズに挑戦。各ブースを巡るとヒントがあり棚田の勉強をしながら答えが埋まる仕組みです。一巡して答え合わせが終わると、お楽しみの抽選会。その結果に一喜一憂してとても賑やかでした。外れクジを引いた年配者には『こんなに巡ってアメ玉一つ?』とお叱りもありましたが、人気は上々で連日押すな押すな盛況。スタッフもてんてこ舞い、当日分賞品が連日3時前に底をつく状況でした。



ステージ イベント

ミニステージの注目は

1日目は棚田博士こと中島峰広氏による「棚田はなぜスバラシイか」。棚田米の美味しさ、原風景、水源涵養性、生物多様性など棚田に初めて接する方向けに熱く語りました。

2日目は著書やテレビで有名な東京広尾の分とく山総料理長・野崎洋光氏によるトーク「料理人、棚田に入る」。旬の食材を求めて全国に、新潟県十日町市にも足しげく通い、里山や棚田の魅力に取り憑かれた料理人です。食材の選び方から美味しいご飯の炊き方、おむすびの作り方など、和食の奥深さを語っていただきました。

そして3日目は里山・棚田をテーマにした現代バレエ。大山千枚田を拠点に活動する鴨川現代バレエ団による「里舞〜棚田からの贈りもの」。ステージいっぱいに繰り広げる優美な舞いに来場者も大きな拍手を送っていました。さらには、棚田をテーマにした紙芝居も。最終日を飾るにふさわしい演出となりました。

ミニステージではその他にも出展14団体による地域PRタイムもありました。



1：棚田博士のトーク。司会は軽快な語り口の谷崎テトラ氏と大野涼菜さん／2：分とく山総料理長・野崎洋光氏によるトーク
3：ちびっ子たちも巻き寿司づくりに挑戦！／4：鴨川現代バレエ団の「里舞〜棚田からの贈りもの」



新潟県十日町市・星峠の棚田

田園芸術の すばらしさ ～国内編

(最終回)

日本の棚田は畦の形状が丸く、目に優しく映る。「ホッとする景観」の要件でもある。今、この景観が耕作放棄により失われつつあり、写真家による「記録」が求められている。耕作放棄地は一気に草木に覆われる。写真として記録しないと、「そこは棚田ではなかった」といったことが起こるのではないだろうか。今の世は、「解枳の変更」が流行しているから恐ろしい。15年前と比べれば2倍の耕作放棄面積となっていました。早く気付いていれば、全国の棚田の「以前と今」の記録に挑戦していたかもしれない。

写真・文 森 公夫



森 公夫 もり きみお



1941年 千葉県に生まれる。2001年 運輸会社を定年退職、写真を趣味として現在に至る。

所属写真団体 日本写真作家協会

●コンテスト入選歴：フジフィルム、JPA、二科

●個展「狼だより」 2011年6月 新宿 シリウス

●個展「時空アメリカ西部」 2012年5月 四谷 ボートレイトギャラリー

●個展「梯田—通天之路」 2014年3月 新宿 シリウス

棚田・里山
からの
たより



耕作放棄地の棚田を 日本一のシャクヤク園にしたい！

高知県長岡郡大豊町八畝地区^{ようね}

地すべりと国土保全

大豊シャクヤクの会の出発点を、地すべり地の国土保全から考えてみます。

高知県大豊町^{ぬた}八畝地区^{ようね}は地すべり法の地すべり地帯で、国土交通省が直轄で事業を行っています。シャクヤクの会は設立して約3年ですが、国土保全上からは約7年前から地道に実施しています。

その当時の国土交通省四国山地砂防事務所長の「地域振興なくして砂防事業なし、砂防事業なくして国土保全事業なし」という言葉です。地域が疲弊して住民がいなくなれば、砂防事業という公共事業をするでしょうか。

最近では、土砂災害で尊い命が亡くなっています。土砂崩壊して河道が閉塞し決壊すれば、下流に大災害を起こします。

人の移住、定住と産業起こしの地域振興が、国土保全に繋がります。

八畝地区の概要

怒田から八畝を見た場合、説明を聞けば地すべり地形というのが分かります（写真2）。

八畝地区は昔に地すべりを起こした地域です。地すべりを起こして急斜面↓緩斜面↓急斜面、の地形です。「上部で地すべりを起こし急斜面になる↓土砂が堆積して緩斜面になる↓下部は大きな石（岩）となり急傾斜になる」。

この僅かな緩斜面地に人が住み、棚田が発展してきました。この棚田は、世界遺産になっているフィリピンの土を盛り上げた棚田ではなく、先人たちが知恵と汗と血で石を積み上げた棚田です。

地すべり地は形成の過程で透水性があり、浸透防止のため水田では粘土層が地表から20^{センチ}の深さに敷き詰められています。先人の生活のための知恵です。

八畝地区は世帯数32世帯、小中学

1：八畝の棚田(八幡さまが祀られた棚田)／2：対面(怒田集落)から見た八畝集落／3：耕作放棄地の棚田を日本一のシャクヤク園に／4：畝立て後、地キビを定植

校は統廃合され八畝近隣にはありません。20年前くらいは稲作が中心でしたが、柚子等の果樹が増え、現在では耕作放棄地が多くなっています。

地すべりは地すべり事業をして頂いていますが、現在でも進行しており、八畝でお世話になっているおじちゃんちの擁壁等のクラックは開いてきています。棚田は粘土層を敷設するため地すべり軽減効果があることが、2年半の観測およびシミュレーションで分かり、新たな知見となっています。

何故、シャクヤクか？ 何故、キビ&キビ焼酎か？

シャクヤク栽培は、お世話になっている八畝のおばちゃんの発案です。シャクヤクは棚田の粘土層を壊さない、1回植えれば手入れだけでよい、マルチ・防草シートを張れば雨水の浸透を防ぎ、地すべり軽減効果がある。国土保全に必要なことをカバーしてくれます。また、「立てばシャクヤク座ればボタン、歩く姿は・・・」と、綺麗な花で観光資源となります。

キビ栽培は、高知大学の先生の「熱い夢」からスタートしています。耕作放棄地を開墾してキビを植え、そしてシャクヤクを植える。キビはシャクヤクまでの1段階です。そして、焼酎をつくります。焼酎の原料キビは当年に開墾した放棄地です。ので、面積は増えません。

放棄地を貸してくれる方がいなくなれば、シャクヤクもキビ焼酎も出来ません。しかし、いいのです。大豊シャクヤクの会には高知大学生、関東や他地方の大学生等がきてくれています。地元の方との交流も盛んでよい関係を作っています。

キビ焼酎の販売で学生達の社会勉強をして頂き、労働の素晴らしさと労働の対価を与えることで十分です。

嬉しい期待！？

国土交通省四国山地砂防事務所、約7年前にインターンシップに来てくれた筑波大学の女子学生が、ずっと東京から八畝に来てくれています。今年度、高知大学の地域振興関係で働きたいと挑戦しています。合格して八畝を含む嶺北地方

の担当になり、八畝で移住・定住となれば、大豊シャクヤクの会として第1号となります。本当に「熱い志と気持ち」を持った女子学生です。8年程前に八畝に移住し、集落を元気にしたいと考えてきた大谷夫妻。おじちゃん、おばちゃんと呼ばれています。おじちゃん、おばちゃんとのこと子で、もつともつと八畝は振興します。この3人の共通点は話好きなことです。振興には話好きでなければなりません。

(大豊シャクヤクの会会長 薬師敏宏)

■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR豊永駅前より「大豊町乗り合いタクシー」利用：運行日は週3日（月、水、金）で前日までに予約が必要。予約先0887-72-0308。他に町営バスが途中の落合地区まで運行されているが便数が少ない。

【自動車】 JR豊永駅前より国道439号線に入り、東豊永郵便局の手前を右折し「梶ヶ森」方面の標識に沿って進む。駅前より約7km（20分）。

■ お問い合わせ

大豊シャクヤクの会
〒789-0164 高知県長岡郡大豊町八畝434 大谷方
e-mail : otoyopeony@gmail.com
HP : www.otoyopeony.com/



八畝の棚田(収穫)

● 今後の課題

- ・キビ焼酎の安定した生産
- ・八畝だけでなくオールジャパンで！
- ・地すべり事業への貢献
- ・その他



りんご温泉:tel:0237-67-7888/http://ringoonsen.blog.fc2.com

第五回

りんごの町の棚田と温泉

棚田↑↓温泉案内所

全国のベスト・カップルな棚田と温泉をご紹介！

昨年6月に山形県朝日町の情報交流推進員(地域おこし協力隊)となり、秋口に初めて榎平棚田保全活動に参加しました。稲刈り、稲杭打ち、稲杭掛け、全てが初体験でしたが、先人の知恵と農業機械の素晴らしさを肌で感じながら無事に終えることができました。

いい汗をかいた後は、いい湯といい飯で締めたいものです。朝日町には、町特産のりんごを浮かべる「りんご温泉」という少し変わった天然温泉があります。棚田保全活動の参加者には、毎回この温泉の無料入浴券が配られるため、しっかりと働いた体を癒やすのにもってこいです。りんごの香り漂う本館風呂の他に、別館には露天風呂もあり、葉山・月山・朝日連峰を望みながらゆっくり浸かれば、体も心もリフレッシュできます。

風呂からあがる頃には、もうお腹はペコペコです。本館にあるレストラン「ひめさゆり」や町内の飲食店には、期待を裏切らないメニューが並びます。冬場には、りんごを麺に練りこんだ「りんごラーメン」がおすすです。とはいえ、数あるメニューから何にするか悩むのも、楽しみのひとつです。

朝日町情報交流推進員(地域おこし協力隊)

青木亮太



第七回は富山県富山市の『河西棚田』を紹介するわ。

この河西集落では、地域農業の活性化に向けて色々な活動をしているの。

例えば、景観作物であるコスモスやヒマワリの栽培や耕作放棄地の復元活動、水路農道維持管理活動など、美しい農村景観を作るために、集落一丸で活動しているそうよ。



そんな河西集落の棚田オーナー制度では、都市住民との交流によるむらづくりを目的としているの。だから、全員参加の田植え・稲刈り体験以外にも、自由参加でホテル観察会やバーベキュー、季節の野菜収穫やソバ打ち体験など、四季折々のイベントがたくさん！参加料金は、水田1区画と野菜農園を貸していただいて、年会費は25,000円。収穫したコシヒカリ/玄米30kgと野菜を持ち帰れるわ。作業時には食事を提供していただけるの！

応募資格などの詳しい情報は、「スロータウン越中八尾」公式サイト of 河西棚田オーナー募集ページをチェックしてみてちょうだいね！
<http://www.cty8.com/slowtown/>



ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

第七回

こちらもチェックしてみてネ！
棚田オーナー募集地域紹介サイト

棚田百貨堂 検索

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

熊野山中色川の棚田

和歌山県那智勝浦町小阪



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ト開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

那智勝浦町は、和歌山県南部の太平洋に面する漁港・温泉町であるとともに、熊野三山の一つ那智大社、西国三十三所観音霊場の一番札所青岸渡寺、そして名瀑那智の滝がある観光地としても知られている。色川は昭和の大合併で那智勝浦町に合併した旧村。町の北部標高350m前後の丘陵性山地によって占められる。小阪は旧色川村を構成した9大字の一つ、那智大社や青岸渡寺からは直線にして2km弱の距離に位置している。

色川の棚田については、和歌山県有田川町で開かれた第19回全国棚田サミットの際に情報をえていた。ことに、見事な景観の棚田があり、住民の3分の1がイタタンの人たちという話に興味をそそられた。

2015年3月中旬、早朝6時発のぞみ1号で東京を発ち、名古屋

で特急南紀1号に乗り換え、終点の紀伊勝浦駅に12時少し前に到着した。駅前からは1日3便色川に向かう籠行きの町営バスがあり、13時発のミニバスに乗り込む。バスは、一人を乗せて市街地の西を走る国道42号に入って北上、JR那智駅に立ち寄り那智大社に向かう県道43号を直進。途中標高20mに位置する井関の三叉路を左折、熊野山中に分け入る県道43号を西へ向かう。七曲りの坂道は次第に勾配を増し、日本ダイヤモンドゴルフ倶楽部、南平野の集落を過ぎて、標高350m付近に停留所がある小阪に到着した。

百選の棚田に劣らぬ 壮大な景観

棚田は、県道の下、幅150m、200mの谷の傾斜6分1の斜面に

拓かれている。面積は中山間地域直接支払の総額220万円から推測して約10ha、1枚の面積が2坪として500枚、すべて石積みみの棚田である。この団地の下にさらに棚田が連続しているため、百選の棚田に劣らない壮大な景観だ。この景観を守り続けてきた人々の苦労が偲ばれる。

谷の中央部を流れる川は2011年大水害の復旧工事で谷壁の石積みを固めたモルタルが新しく、全体が白々と見える。県道に近い谷の上段部分では、右岸は一部耕作されているが、15枚ほどが茶畑に転換されている。左岸の20枚近くは放棄されているが、草刈りで棚田であることが

わかる。

一方下段部分は比較的良好に耕作されており、右岸の茶畑に続く20枚以上は後述する棚田を守ろう会の2人のーターン者、さらにその下の4枚は守ろう会の代表が耕作しているとのこと。合わせて40[㍓]ほどの面積と云うから1枚が2[㍓]弱の広さ、石積みの高さは1[㍓]前後。左岸の80枚40[㍓]は守ろう会によって耕作されているが、平均でも1枚が0・5[㍓]、小さいものは耕耘機を反転させるのに骨が折れるほどの狭さである。下から見上げると1・2[㍓]の高さの石積み重なりで圧迫される。

守ろう会が耕作する棚田の南側20枚ほどは近年放棄されたもので、いつでも復田できる状態で保全されている。その下の、20数枚面積30[㍓]、



1・2：色川の棚田／
3：左から矢作さん、
西浦さん、原さん、
松木さん／4：耕耘
機を反転させるのも
一苦労／5：大阪の
バス停／6：2011
年大水害後に復旧さ
れた岸壁

1枚が0・5×1・5[㍓]、石積みの高さ1[㍓]前後の棚田は代表が耕作、よく管理されているためか地域で一番美しい棚田といわれる。

「守ろう会」が支える棚田

訪問を告げてあったので、棚田を守ろう会の休息小屋に主要メンバーの4人が顔を揃えていた。二代目代表の松木繁明さん62歳、副代表の原和男さん60歳、小阪区長西浦完治さん62歳、会の有力メンバー矢作忠さん47歳たちで、原さんと矢作さんがーターン者である。

松木さんは独身、前区長であり、西浦さんとは小・中学校の同級生だという。学校卒業後25歳まで名古屋で職工として勤務したが、帰郷して8年間両親の農作業を手伝いながら左

官職人として働いた。その後両親にかわり先祖伝来の土地を守り耕作を続けるために、近くにできたゴルフ場に入り、コース管理の仕事で23年間続け、60歳前に退職した。退職後も一人で棚田30[㍓]30枚を耕耘機、歩行型2条田植機、バインダーなどを用いて耕作、収穫した米を天日乾燥米として直接販売するほか、区有林でシキミを栽培する農家を手伝い手間賃を稼いでいるそうだ。

原さんはーターンの受け入れ組織・色川地域振興推進委員会の3代目会長でもある。兵庫県明石市の出身、京都府立大学農学部を卒業後、2年間造園会社勤務したが、農業に従事したいという強い願望から退職、1981年に色川の中心集落大野に独身で移住してきた。この時す

で色川には有志による都市部からの移住者を受け入れる団体があり、その団体を通じて家と土地をセットにして手に入れることができ、所帯を持って3人の男の子を育てた。子供たちは成人し、滋賀県在住のサラリーマンである長男を除き地元に残り、次男は集落支援員の女性と結婚。茶の栽培、繁殖牛の飼育、養鶏を営む専業農家。三男は狩猟の資格を持ち獣害対策に取り組み、ジビエの商品化による自立を目指しているという。原さん自身は奥さんと二人で棚田20[㍓]、畑60[㍓]を耕作、無農薬、有機肥料によって栽培した野菜類をセットにした宅配販売と、今年次男に譲った500羽の養鶏で生計をたててきた。現在は10[㍓]に縮小した畑での野菜栽培を奥さんにまかせ、地元の梅ジャム・梅ジュースの加工施設の責任者を務めているそうだ。

西浦さんは独身、高校を卒業して上京、測量会社に勤務した後、転職して庭師になった。父親が亡くなった42歳の時、家の土地を守り母親の面倒をみるために帰郷した。現在は耕耘機、歩行型2条田植機、バインダーなどを用い自作地15[㍓]、小作地23[㍓]の棚田を耕作、自作地10[㍓]、区

有地30[㍗]でシキミを栽培し、兄が経営する新宮の花屋へ出荷している。

矢作さんは横浜でライダーハウスを経営していたが、2013年3月に奥さん45歳とともに色川にイーターン移住。本人は農機具の修理、奥さんはコールセンターの仕事で生計をたて、松木さんの農機具を借りて放棄されていた棚田12枚2[㍗]を耕作している。

当日お会いできなかった橋爪弘行さん60歳は、1年の3分の1を奈良県大和郡山市、3分の2を小阪で生活する半イーターン者ともいえる人。大阪の会社に55歳まで勤務、奥さん子供2人と別れ田舎暮らしを始め、現在は放棄された棚田10枚15[㍗]を松木さんの農機具を使って耕作、守ろう会の耕作責任者である農場長を務めている。原さんが初代代表の時は松木さんが農場長だったそうだ。守ろう会は、地域住民15名（うち10名がイーターン者）で構成される正会員と、これを支援する賛助会員によって2004年に結成。5名の地権者が放棄した棚田80枚40[㍗]を正会員が耕作・管理している。賛助会員は1万円の会費を払い、白米5[㍗]・お茶セット・塩・梅などから1点の

みが保証され、田植え・草刈り・稲刈りの体験を行う場合、1回千円の体験料を払わねばならない。このようにして得た資金により、正会員が行う作業に対し時給千円の労賃を支払うという仕組み。一種の棚田オーナー制度ともいえる。よく考えられた組織であるが、問題は当初100名近かった賛助会員が半減していることだ。新たな賛助会員をいかにして獲得するかが喫緊の課題である。

地域住民の約三分の一はイーターン者

イーターン者を受け入れる団体は40年も前から存在したといわれるが、1991年に公的な組織として色川地域振興推進委員会が誕生した。委員会は、色川地域9大字から戸数に応じて26名の委員が選ばれ、各大字の空家状態を把握、行政・ネット・マスコミを通じて情報を発信、イーターン者の受け入れを図っている。

これらの努力により、現在色川地域210戸のうち約70戸がイーターン者であり、耕作されている田畑50[㍗]のうち25[㍗]30[㍗]はイーターン者が耕作しているという。これは、飯米確保のために農業を営む人や農的生活を

楽しむ人がいることを意味する。地代は無料、家賃は月に1〜1.5万円が相場だそうだ。イーターン者の職種は農業従事者が10数戸、林業関係の仕事が10数戸、域外に勤めるサラリーマンが10数戸、年金生活者が10戸、その他医師、僧侶、写真家、デザイナーなど多彩である。

これほどの数のイーターン者により、他の地域から隔絶した感のある色川地域は賑わいがもたらされている。例えば小阪は戸数が40戸から22戸に減少、12戸が空き家で住民の平均年齢は70歳を超えるという集落である

が、矢作・橋爪の2戸のイーターン者によって地元に残って頑張っている松木・西浦さんらは元気づけられ活気が生まれている。また、原さんのように色川で子育てをするイーターン者がいるため、廃校になっても不思議はない小・中学校が今もなお大野に存続していることは特筆すべきことだ。過疎高齢化と地方経済の不振により、限界集落から消滅集落への道を辿ろうとしている中山間地域にあって、イーターン者によって盛り上げられる色川地域は色川モデルとして喧伝するに値する事例と考える。

色川の棚田へのアクセス



【公共交通】JR紀勢本線・那智駅前から籠行きの町営バスに乗り、小阪バス停下車。所要時間11km 25分

【自動車】JR紀勢本線・那智駅前から県道43号線経由で小阪バス停まで11km、約20分

会員レポート

会員のひろば



会員の声募集！

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！
 (ご要望、感想やご質問でもOK！)
 (会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて)
 〒160-0003 東京都新宿区西新宿七ーハー六
 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛
 メールでも受付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp

サラメシに商機あり〜オフィスおにぎり販売の試み〜

新潟県長岡市
宮田裕介

平成16年に発生した中越震災により甚大な被害を被った法末集落(新潟県長岡市)は棚田と農家屋敷が美しい山村です。集落の活性化策の一つとして、東京でおにぎりを販売する事業を昨年からスタートしました。

昨年地元JA柏崎によるコシヒカリの買入れ価格は1俵で一万五千円です。1キロあたり2500円です。棚田の後継者育成のためには、1キロ500円以上で買い上げる仕組みが必要と考え、主に首都圏の消費者への直接販売に取り組んできましたが、経費を含めて1キロ千円で販売する事業では限界があります。そこで、お米ではなくご飯を、東京のオフィスで働くサラリーマンに売ることになりました。おにぎりを1個100円で売れば、米1キロを2千円で売ったことになりました。

昨年11月から毎週火曜日、4回にわたり流通大手の株式会社良品計画本社で、おにぎりの製造と販売の実験をさせて頂きました。結果として1日で2万円以上の売り上げに達しました。

当面の間売り上げ目標を50万円とし、販売数の向上と経費の圧縮に取り組んでいきます。



お米屋さんが教える「棚田米」食べくらべ講座

神奈川県川崎市
高桑智雄

棚田ネットワークの法人会員でもあるクラブツーリズム株式会社主催の特別講座『お米屋さんが教える「棚田米」食べくらべ講座』が平成27年12月14、15日に千葉県常盤平、神奈川県相模大野、東京練馬のクラブツーリズムカフェで開催されました。

講師を務めたのは、こちらも法人会員の成川米穀社長の成川亮治さんで、ご自身が運営する棚田米専門ショップ「棚田米百選」で培った経験をおまですところなく披露し、棚田米の美味しさや棚田の魅力を伝えました。

参加者はほとんどがクラブツーリズムのお客さんで、参加費千円ながら3会場あわせて54名と大盛況で、旅行好きの方の棚田への関心の強さがうかがわれました。棚田米の食べくらべでは、山形県榎平のつや姫、長野県埴田のこしひかり、岐阜県坂折のみねあさひの3種を名前を伏せたまま、それぞれ香り、外見、味、総合で評価し、最後に地域を当てるのですが、みなさんとても熱心に取り組んでいて相模大野店では14名中4名が全問正解でした。

その他、棚田や棚田米の基本的知識の講習、棚田関連グッズのお土産抽選会などお楽しみ満載で、店内には棚田米の販売コーナーもあり、クラブツーリズムさんと成川米穀さんの棚田への思いが詰まった講座となっていました。





会員のみなさんのベストショット募集!!

みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント（70文字程度）を添えて編集部まで送ってください。



春日の棚田（長崎県平戸市）
東京都中野区 峰不三子



FOUJITA



©2015「FOUJITA」製作委員会/ユーロワイド

2015年／日本・フランス／カラー／126分
監督・脚本：小栗康平／特別協力：フジタ財団
現在公開中（全国随時公開決定）
<http://foujita.info/>

エコール・ド・パリ、戦時の日本——。二つの文化と時代を生きた画家、藤田嗣治の、知られざる世界を圧倒的な映像美で描く。1920年代、フランス・パリ。「乳白色の肌」で裸婦を描き、エコール・ド・パリの寵児となったフジタは、ピカソら時代を彩る画家たちと華やかな日々を送る。1940年、第二次世界大戦を機に帰国。数多くの“戦争協力画”を描き、日本美術界の重鎮に上りつめていく。絢爛なパリと、日本の閉じた農村の静けさの対比、その象徴として、ラストシーンの霧に浮かぶ棚田は見事。

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



著者：安田喜憲
¥2,160（税込）
出版社：雄山閣
2015年5月

日本神話と長江文明

中国の古代文明と言えは黄河文明であるが、最近の考古学的発見により、長江流域に稲作漁撈を中心に発展していた長江文明の存在が新たに注目されている。
本書は、黄河文明の圧迫により、南へ後退した長江文明人の一部がミャオ族などの山岳民族となり、一部がボートピープルとなつて日本へ漂流したという文脈から、稲作漁撈文明史観としての日本神話を読み解きます。畑作牧畜文明であつた黄河文明の理論では解明できない日本神話の本質をえぐり、日本の棚田の起源まで考察していきます。

棚田保存会意見交換会@棚田サミット

棚田保存会意見交換会(コーディネーター: 中島峰広当代表)が、棚田サミットの一つの分科会として実施されました。

意見交換会は第19回有田川町サミット(和歌山県)から実施され、今回で3回目となります。この意見交換会は、各地域で活動されている保存会の皆さんが、日頃抱えている身近な課題を本音で語り合える場がないことから、当会が企画して立ち上がりしました。今回は西日本ブロックの27団体に呼びかけ、15団体から参加するとの回答がありました。当日は二つのグループ



2015年10月23日 報告 木戸幸子

に分かれ、保存会代表の皆さんにとっては共通の課題でもある高齢化や担い手不足の対策・取り組みをテーマに、2時間の限られた中ででしたが、具体的に熱く話し合いが行われました。進行は中島代表のほか、当会から3名(連絡協議会個人会員)が行いました。

今年の佐渡サミットでは東日本の保存会を中心に意見交換会を行う予定です。

なお、今回参加された団体は以下です。

- | | |
|-----------|------------|
| ■ 島根県吉賀町 | 助はんどうの会 |
| ■ 山口県周南市 | 棚田清流の会 |
| ■ 山口県長門市 | 東後畑営農組合 |
| ■ 愛媛県大洲市 | 檜谷棚田保存会 |
| ■ 高知県橋原町 | 千枚田ふるさと会 |
| ■ 福岡県うきは市 | つつら棚田を守る会 |
| ■ 佐賀県有田町 | 岳信太郎棚田会 |
| ■ 佐賀県小城市 | 江里山棚田米生産組合 |
| ■ 佐賀県玄海町 | 浜野浦棚田組合 |
| ■ 佐賀県唐津市 | 蕨野の棚田を守ろう会 |
| ■ 長崎県波佐見町 | 鬼木棚田協議会 |
| ■ 長崎県長崎市 | 大中尾棚田保存会 |
| ■ 熊本県山都町 | 菅地域振興会 |
| ■ 宮崎県日南市 | 酒谷やっちみろ会 |
| ■ 大分県玖珠町 | 早杉営農組合 |

棚田ネットワークの かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

談山神社ってご存じですか？
中大兄皇子と中臣鎌足がクーデター(大化の改新)を相談した山ということで談山。毎年行われる嘉吉祭(カキツマツリ)を知ったのは五年前、日程が十月第二週の日曜なんでオーナー制度の稲刈りと重なり、ずっと行けずに一昨年はわざわざ休みを取ったのに親族の結婚式と丸かぶり～ありました。
この嘉吉祭で献上される神饌が、それはそれは美しいのです。収穫した食物を彩色して組み合わせた造形はどこかエキゾチックで、秋の豊かな境内にあつてはなんとも刺激的です。是非、おすすめ。
旅程を立てれば、景勝地やグルメのほかに「棚田」を調べるのも、昨今は当たり前になっています。石舞台古墳に近い「稲刈棚田」にもアポイントを取っていて、保存会の方に色々とお説明してもらいました。明日香川を望むように広がる緩やかな棚田風景で、夏にはホタルが舞うとのこと。もう一月早ければ彼岸花が畔を紅色に染めます。
明日香川の上流より水を引いているとのこと、「どれくらい前からなんですか?」とお尋ねしたところ「千年以上前だよ」って。。。
先ほど観てきた談山神社の雅な空気が、いきなり周囲を包みこむような。さすが奈良です。



上:稲刈棚田/中:談山神社
下:神饌

スタッフの つ・ぶ・や・き ＜輪番制＞



今回のつぶやき人

事務局
たまさき

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

一年を振り返って



当ネットワークの新しい体験フィールドを千葉県・鴨川市の川代棚田に設置し、地元川代集落の熱心な指導の下、皆様のご協力で田植えと稲刈りのイベントを無事終了しました。収穫したお米3俵(180kg)は、参加者や会員の希望者、維持会員への特典米などで全量頒布することができました。自分で植え、刈り獲った長狭米の味は如何でしたでしょうか。

昨年の参加者は、田植えツアー 38名、草刈り3名、稲刈りツアー 28名と多くの参加をいただきましたが、来年も都心に近いという地理的条件を活かし、棚田での農作業体験はもちろんのこと、地元の仏閣の見学など少しでも充実した体験プログラムとし、棚田への関心を持って頂ける人の輪を広げたいと思います。来期もご期待ください。(杉山 行男)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

昨年の活動でのエピソード



棚田石積み塾

昨年を振り返っていくつか報告します。5月22日の田植えの際、アジアからの観光客らしき人を見つけ、話しかけました(英語)。香港から4名、両親と20代の娘さん2人(流暢な英語)、合計4名。名古屋ナンバーのレンタカーを借りてドライブ。「香港にはない風景」と楽しんでいました。坂折棚田に個人旅行の外国人旅行者が来るとは…時代が変わりました。観光資源としての棚田の重要性を感じました。

恵那市坂折棚田保存会の棚田石積み塾が10月30日、11月1日の両日開催され、初日のみですが参加しました。棚田ビオトープの石垣もいつかは崩れるので、その時に役に立てばと思います。

さて、「第9回かえるの卵を探そう!」は3月20日(日祝)に開催予定です。暖冬でもっと早めようかと思いましたが、雪も降り、冬らしくなってきましたので、この日付にしました。(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

「新米を食べる会」で1年の締めくくり



昨年11月23日に「新米を食べる会」を開催し、平成27年のイベント全7回が無事終了しました。交流棟を会場に、イベントで収穫された新米を炊飯器と土鍋で炊き、石部集落伝統の汁物「ごじる」をみんなで作り、地元のしいたけやさつま揚げ、きびなごを炭火焼きにして楽しみました。また地域おこし協力隊の方から近くで捕獲されたばかりの猪肉の差し入れもあり、とても賑やかな会となりました。

平成27年度は、田起こし、畦切り・糞口作り、代かき、畦付け・畦塗り、田植え、草刈り・草取り(2回)、稲刈り、脱穀・精米まで、参加者とスタッフで行いました。もちろん水管理などの日常管理はできませんが、年々お米づくりの経験値が少しずつアップしています。そして今年も3月初旬の「畦切り・糞口作り」から5年目のイベントをスタートします!(高桑 智雄)



法末

Hossue

ほっすえ

豪雪地帯の山間集落「法末」には、
多くの棚田が守られ、美味なる米と妙なる風景が在ります。
世界に誇るこの美しい山村を日本の宝として、
世界中の人達に来て触れてもらい、やがてそこに住み、
暮らしと環境のグローバルスタンダードを
次世代に継承する「ひと育て」に取り組んでいます。



古民家ゲストハウスリゼン

都市農村広域共助ネットワーク

〒949-5334 新潟県長岡市小国町法末 884 / tel 0258-95-3125
mail: office@hossue.jp Homepage <http://www.hossue.jp>



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に
協力したい!」という会員によって自
主的に運営されているNPOです。
消えゆく美しい「棚田」をどのように
保全していくことができるのでしょ
う?一緒に考えませんか?ぜひ、私
たちと棚田の応援団になりましょう!

会員に
なると!

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベ
ント案内お届けの他、棚田ネットワー
クが主催する各プロジェクト(イベント)への参加
や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員
維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 4,000円
応援会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいた
だけ、企業、団体、事業主さまを募集して
います。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイ
ズ)は法人会員さまのPRスペースとし
て広告や広報にご利用いただけます。
(詳細はお問い合わせください)

新年を迎えて、棚田ネッ
トのHPをリニューアルしま
した!理由はもう10年近く
使ってきた旧HPのデザイン
が古くなったこと。インタ
ーネットの世界はシステムや
デザインの流行の変化が激
しく、今はスマートフォン
などの様々な端末への対応が求
められます。

一方棚田は、時代を超え
て変わらないデザインであ
り続けます。機能的に時代
遅れになっても、その美し
いデザインに古さは感じま
せん。棚田が変わらないの
は、常に変わり続ける時代
の流行ではなく、変わらな
い何かに根ざしているから
でしょう。そしてその「変わ
らない何か」が、日頃うわ
べの変化に翻弄され続ける
私たちの疲れた心を癒やし
てくれるのです。

編集部から

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイト
リニューアルしました!



<http://www.tanada.or.jp>



2016年 冬号 Vol.99

発行 NPO法人
棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp
郵便振替口座: 00100-7-151565